

飯塚病院（漢方診療科）



福岡県27期 吉永 亮

福岡県飯塚市



福岡県の中央部に位置

かつては筑豊炭田の
中心都市として発展

現在は飯塚アジアIT特区
の指定を受け九州工業
大学と連携してハイテク
産業を育成

飯塚市の名所①

旧伊藤伝右衛門邸



筑豊の炭鉱王「伊藤伝右衛門」の栄華を物語る豪邸
妻である歌人「白蓮」が10年間過ごし、白蓮の友人「花子」が主人公の
NHK連続テレビ小説「花子とアン」でも紹介され観光客が急増

飯塚市の名所②

ボタ山



「ボタ」とは、九州地方の炭坑で使われた言葉で、選炭した後に残る石や質の悪い石炭のことで、それらを半世紀近く積み上げて出来た山炭鉱町として発展した飯塚の面影が残っている

飯塚市の名所③

嘉穂劇場



大正時代からある日本に現存する数少ない芝居小屋
2003年の大雨で浸水被害にあったが、明石家さんま、津川雅彦、
中村勘三郎らが駆け付けチャリティーイベントを行ったことでも有名

私の略歴

- 2004年 自治医大卒業
- 2004年 飯塚病院 初期研修
- 2006年 福岡県立嘉穂病院内科
- 2007年 新宮町相島診療所
- 2010年 八女市矢部診療所
- 2013年 飯塚病院漢方診療科



義務年限は、離島と山間地の1人診療所に勤務
研修日を利用して飯塚病院で漢方の外来研修を行い
地域医療に積極的に漢方を活用した
義務明け後、さらに深く漢方を勉強しようと漢方診療科で修行中

飯塚病院

病院区分	地域医療支援病院
定床数	1116床
診療科目	39科・部
外来患者数	1893人/日
入院患者数	919人/日
医師	291名

飯塚病院

2013年度医師臨床研修マッチング(病院編)

順位		病院名	地域	定員 (A)	1位希望 人数 (B)	充足率 (B/ A)
2013年	2012 年					
1 (→)	1	国立国際医療研究センター戸山病院	東京	45	62	137.8%
2 (↑)	3	聖路加国際病院	東京	24	57	237.5%
3 (↑)	6	横浜市立市民病院	神奈川	18	55	305.6%
3 (↓)	2	国立病院機構東京医療センター	東京	30	55	183.3%
5 (↓)	4	武蔵野赤十字病院	東京	10	54	540.0%
6 (↓)	5	日本赤十字社医療センター	東京	18	45	250.0%
7 (↑)	8	沖縄県立中部病院	沖縄	27	40	148.1%
8 (↑)	11	横浜労災病院	神奈川	15	39	260.0%
8 (↑)	15	横浜市立大学附属市民総合医療センター ※	神奈川	54	39	72.2%
10 (↑)	13	神戸市立医療センター中央市民病院	兵庫	16	38	237.5%
10 (↓)	7	亀田総合病院	千葉	22	38	172.7%
12 (↑)	18	名古屋第一赤十字病院	愛知	21	35	166.7%
13 (↑)	23	安城更生病院	愛知	18	33	183.3%
13 (→)	13	虎の門病院	東京	23	33	143.5%
15 (↑)	-	川崎市立井田病院	神奈川	13	31	238.5%
15 (↑)	24	麻生飯塚病院	福岡	15	31	206.7%
15 (↑)	-	大阪市立総合医療センター	大阪	16	31	193.8%

2013年度
マッチングランキング
全国15位(病院)

飯塚病院 漢方診療科

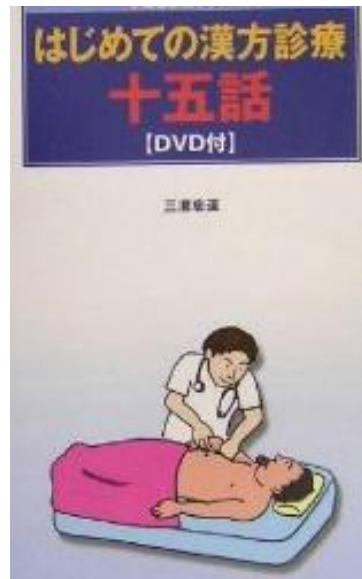
三瀧 忠道先生(現福島県立医大教授)が開設

漢方煎じ薬・和漢食を用いた治療

外来からの入院までの一貫した漢方診療を行う全国でも稀な施設



田原英一部長



漢方調剤室



漢方煎じ薬



手間がかかるが、
エキス製剤よりも
効果が高い

和漢食

昭和の漢方医小倉重成氏がベーチェット病などの難病患者の
治療実践に基づいて作り上げた食事

1. 玄米・菜食

動物性食品(肉 魚 卵 牛乳)は使わない

2. 精製抽出油 加工食品 添加物は使わない (揚げ物 油炒めは用いない)

3. 陰性食品(体を冷やす食物)は用いない

生もの 冷たい物 砂糖 酢などは避ける

4. 少食 1日2食 1000カロリー 程度

切り干し大根と納豆



えんどうの胡麻和え



豆腐ハンバーグ



玄米ごはん

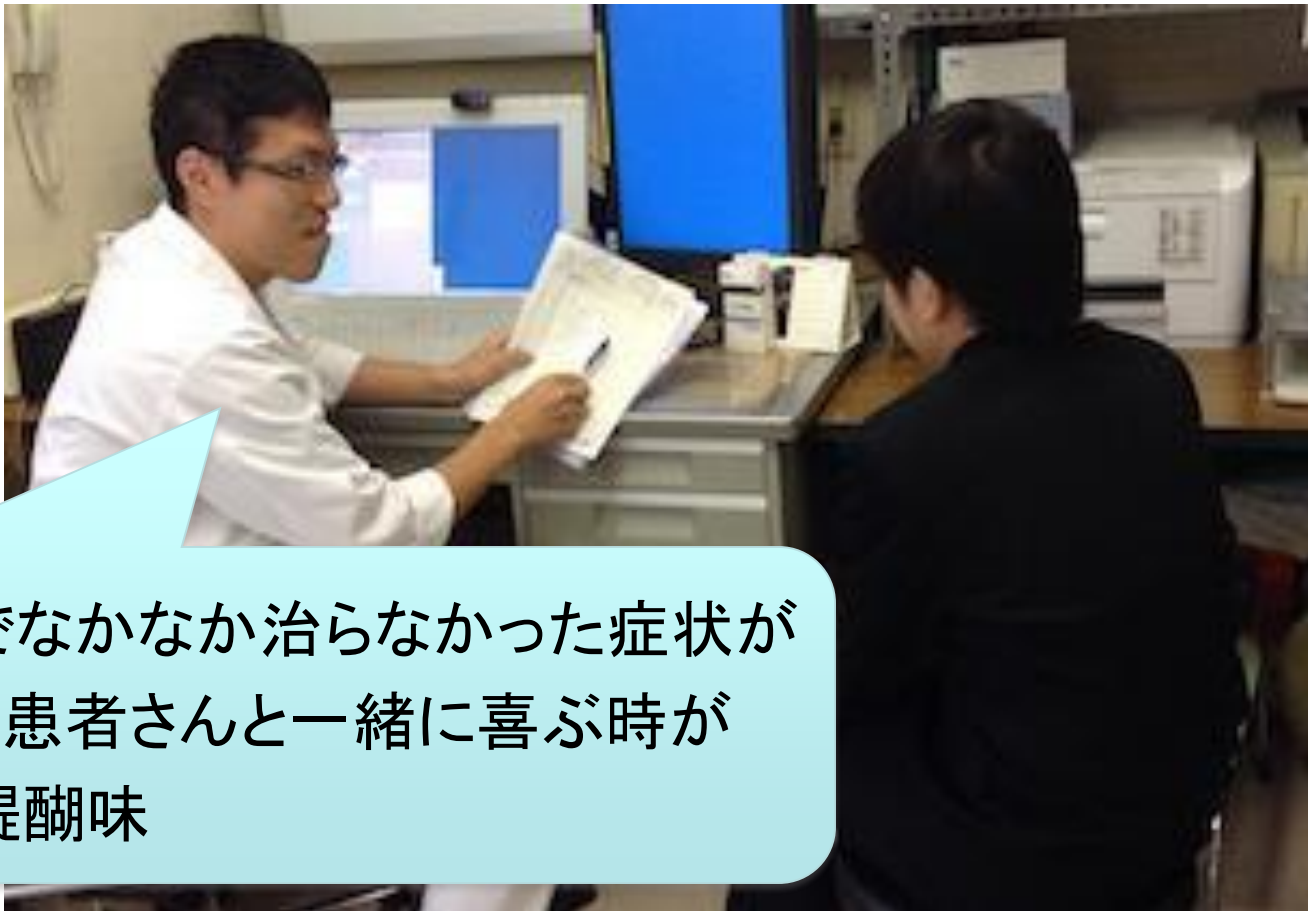


かの子汁

漢方外来

膠原病・アレルギー性疾患・うつ病など

新生児から高齢者まで様々な疾患



漢方薬でなかなか治らなかった症状が改善して患者さんと一緒に喜ぶ時が一番の醍醐味

病棟回診



田原部長の指導のもと、
最適の漢方薬を決定する(2回/週)

**漢方診療以外にも
地域医療での経験を活かして
幅広く診療をやっていきます！！
(もちろん、各場面で漢方を活用)**

有料老人ホームへの訪問診療



緩和ケアチームラウンド



家庭医外来



(颯田病院; 家庭医療学会後期研修認定施設)

救急医療



この日は福岡県の後輩と当直
自分の研修医時代を思い出します
ここでたくさん経験して
地域に巣立って欲しい

野田尚吾先生
(福岡37期)

救急車当番

1-3次救急を後期・初期研修医と一緒に担当

救急医療



限られた時間・医療機器で
初期治療を行う必要があり
僻地での救急と共通点も多い

ドクターカー

心肺停止・意識障害・交通外傷などに出動して現場で治療を開始する

診療以外の活動

漢方勉強会



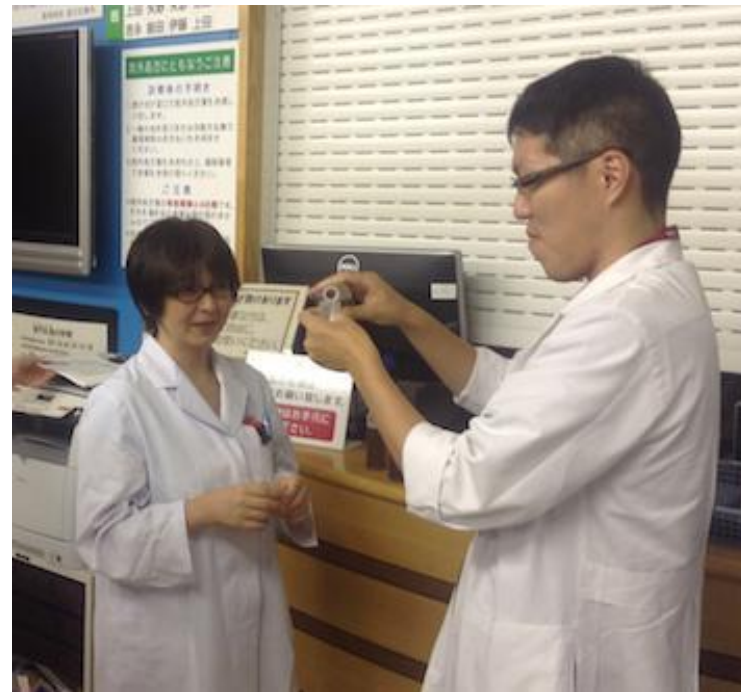
朝の抄読会(毎朝)

麻生飯塚漢方診療研究会(月1回)



日々、素振りのように
古典を勉強

漢方勉強会



生薬勉強会(月1回)

実際に生薬を見て、触って、味わって、理解する

漢方を発信

頭痛

肩こり

院内向け漢方勉強会 2014.11.11
漢方診療科 吉永 亮



院内向け漢方勉強会

頻用処方を使い方・効かせ方

～大建中湯・芍薬甘草湯・抑肝散について～

出口智弘先生
(福岡9期)



武富章先生
(福岡6期)

園田知丈先生
(福岡26期)

漢方勉強会 in 飯塚市立病院

他科のドクター，自治医大卒業医師に

漢方をもっと診療に役立ててもらえるように！

漢方を発信

介護疲れ 漢方で治療



漢方薬の原材料を手にする
吉永医師

飯塚病院は、東西の医学を融合した医療を長年目指しており、漢方診療科がある。他の診療科と併診するなど、現代医学と組み合わせながら、漢方薬を処方している。

飯塚市芳雄町の飯塚病院は、「介護疲れ」が一因とみられる患者の症状に応じて、漢方による治療を行っている。介護を担う人は心身の負担が大きいいため、体力の低下やストレスによるイライラ感から、疲れが取れにくく、体のなるさなどの症状が出やすいとされるが、漢方はそれらの症状の改善や緩和に効果があるという。

(若林圭輔)

飯塚病院 痛みや倦怠感 緩和

複数の病るケースにどで西洋医難しい患者法が明らか方薬を活用関節リウマチアトピー性疾患などで漢方治療介護疲れ全身の倦怠痛みなどを女性を治療院中の夫を

「介護疲れと漢方」について書きました。
(読売新聞 2014.10.21)

外傷救急初期診療講習

Primary-care Trauma Life Support インストラクター



本多英喜先生
(熊本16期)

山内弘一郎先生
(宮崎20期)

自治医大の先輩方と
僻地と救急の経験を
活かして各地でやっています

外傷救急初期診療講習

Primary-care Trauma Life Support インストラクター



林寛之先生
(福井9期)

今明秀先生
(青森6期)



箕輪良行先生
(東京2期)

上山裕二先生
(徳島6期)

世代を超えた自治医大の
つながりを感じます！！

今後の目標

外来・入院治療・訪問診療・緩和ケア・救急など
様々なステージで漢方薬を活用して漢方の可能性を広げたい

日本の地域医療・家庭医療・総合診療に
東洋医学は必須だということを発信していきたい

飯塚病院漢方診療科

連絡先 リンク集
ご利用の皆さまへ 漢方診療の適応 外来受診案内 バーチャル入院 外来担当医師紹介 診療日程表
患者様 漢方薬の作り方・飲み方 漢方ファン コラム・漢方道場 漢方ワールド 生薬シリーズ 和漢食について 漢方いきいきドック 問い合わせQ&A
医療関係者の方へ こんなときには漢方 漢方アラカルト 各種研究会・講演会 日常診療に役立つ漢方 私の漢方診療日誌 脳血管疾患への漢方



飯塚病院
漢方診療科

ブログ
ココをクリック

このホームページは飯塚病院の漢方診療科のページです。
受診を希望される方には、漢方の診療について、外来受診のご案内、最近のトピックスなどを紹介しています。
また医療関係者の方には各種イベント、研究会のご案内の他、実際の漢方診療の紹介、見学・研修希望者へのご案内

当科の基本方針

- 1) 漢方医学的な診察と考え方を基本に、漢方治療を第一選択とします。
- 2) 現代医学的な診断は可能な限り明確にし、現代医学的な病態評価とその経過観察は十分に行います。
- 3) 必要に応じて現代医学的な治療も活用します。総合病院であり、他科と連携が可能です。
- 4) 外来、病棟、病理解剖まで、一貫して臨床に責任を持ちます。

【更新情報】 最終更新日：2013年9月6日

2013年9月6日	漢方アラカルト：当直中の熱発に漢方薬が著効した一例を掲載しました
2013年9月6日	各種講演会を更新しました
2013年9月6日	各種研究会等におけるQ&Aを更新しました

飯塚病院 漢方診療科 HP <http://aih-net.com/medical/depart/kanpo/index.html>

自分以外にも自治医大卒業生(福岡県・山口県・高知県)が漢方の勉強(週1回外来研修～1年間の後期研修)にきており地域医療における漢方のニーズを実感します。

漢方に興味があって、本格的に勉強したい方はどうぞご連絡下さい！

(1日見学でもOKです) 連絡先 ryoshinagah2@aih-net.com